

## 2014年(平成26年度)複数年サイクル点検評価シート【施策評価】 作成例(改正様式)

分野名	全てのいのちが共生する社会の構築		施策 No.	IV-1	施策名	生物多様性の社会への浸透
③	目的、内容	2020年目標「生物多様性の府民認知度を70%以上」の達成を図る。 生物多様性の理解促進(情報発信の強化、参加型プログラムの充実等)及び現状評価(調査の実施、府民連携モニタリング体制の構築等)				
①	副次的効果、外部効果等	①社会教育効果、地域への愛着を高め地域社会の強化に資する。 ②生態系サービス(生態系から得られる恵み;大気・水、食料・木材、医薬品・品種改良、文化・風土)の維持に資する。				
	関係法令、行政計画等	生物多様性条約、生物多様性基本法、生物多様性国家戦略2012-2020(H24.9)、種の保全法、外来生物法 府環境基本条例、府自然環境保全条例、府立自然公園条例、府民の森条例、府自然海浜保全地区条例、府文化財保護条例 みどりの大阪推進計画(H21年12月、H37年まで)、大阪府豊かな海づくりプラン(H17年5月、H26年度まで)				
①	国等の政策、社会情勢等	①H22年10月名古屋市にて生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)開催、新戦略計画・愛知目標(2020年までに生態系が強靱で基礎的なサービスを提供できるよう、生物多様性の損失を止めるために実効的かつ緊急の行動を起こす)、名古屋議定書等を採択。 ②「生物多様性国家戦略2012-2020」H24年9月閣議決定。基本戦略、各主体に期待される役割、ロードマップ、行動計画を規定。				
	施策実施に要したコスト	事業のコスト(千円)	H23(決算額)	H24(決算額)	H25(決算額)	
		本施策が主たる目的である環境関係事業				
		本施策が従たる目的である環境関係事業				
		環境以外の目的を有する事業				
	取組指標及び実績 (施策効果の定量評価)	名称	把握方法	実績		
	①	生物多様性に関する府民の認知度	生物多様性への府民の理解が進み、生物多様性に配慮した行動が取られる長期の将来像の到達状況を把握する。府インターネットモニターアンケートを利用(府民全体からの抽出ではないため、参考値として扱う)。	17%(H20)、31%(H23)、33%(H24)と、穏やかに上昇傾向にある。		
	②	工程表の進捗状況	工程名	進捗状況*	主な事業の名称	事業の実施状況
			生物多様性についての情報発信の強化	☆☆		ポータルサイト「おおさかの生物多様性ひろば」の設置 ガイドブック1,000部を作成(H25年度)
			レッドデータブックRDBの改訂検討	☆☆	レッドデータブック改訂・活用 推進事業	H25年度末にレッドリストを改定
			外来種対策の推進(ブラックバス、ブルーギル、アライグマ等)			26年度に実施
			モニタリングの体制整備(仕組みづくり・実施) 既存施設・団体等と情報共有化	☆☆	大阪生物多様性保全ネットワークの取組推進	行政、研究機関、大学、NPO等でH23年度設立 生物多様性協働フォーラム、自然観察会等開催
			地域のシンボリックな生物によるPR(HP情報発信)	☆☆	天然記念物イタセンパラを利用した普及啓発事業	観察会・出前授業 3年間で3,700名以上参加 支援市民ネットワーク設立、活動にのべ3,000人以上参加
			自然公園施設(府民の森、長距離歩道等)の情報発信	☆☆	「府民の森」のポータルサイト 自然環境保全普及啓発事業	各園地のイベント情報等をリアルタイムで提供、長距離歩道を利用したハイキングイベントの開催 自然歩道ガイドマップの作成
			身近な生き物調査	☆☆		小学校と連携し、チョウの自然観察会を開催(8校で実施)
			企業・NPO・地域と協力した参加型プログラムの充実(共生の森、泉佐野丘陵緑地、里山・棚田保全、アドプトフォレスト、アドプトリバー、アライグマ構想推進等)	☆☆	共生の森づくり活動 アドプトフォレスト事業 オアシス構想推進事業	植栽面積120,000㎡ 延べ参加人数1万3千人 参加団体220団体(H24末) 35件(H25.11現在) 府民協働による水辺環境づくり(H25年度末36地区)
			環境教育の推進(出前授業、学校ビオトープ設置推進)	☆☆		水生生物センター、環境情報プラザにおいて実施 小学生を対象に、チョウを指標とした出前授業の実施 大阪みどりのトラスト協会を通じた、学校ビオトープの整備支援
		※進捗状況:☆☆☆計画以上の進捗/☆☆計画とおり/☆計画とおりではない				
	④	総括的評価	(記載例)・当施策の各事業は(・・・の工程・事業等を除き)概ね順調に進捗している(想定以上に進捗している)。 ・工程「〇〇」(〇〇事業)については、計画通り進捗していない。 ・当施策の事業の実施の結果、〇〇効果として約〇億円相当の副次的効果が得られていると考えられる。			
		施策の実施、改善等の方針 工程表の見直しの方針	(記載例)・当施策は、今後も現在の環境総合計画の内容どおり実施する。 ・当施策(工程「〇〇」)(〇〇事業)については、関連行政計画である〇〇との整合を図る観点からの見直しを行う。 ・当施策(工程「〇〇」)(〇〇事業)については、より〇〇の効果が高い(〇〇に配慮した)事業内容となるよう見直しを行う。 ・取組指標について、〇〇の把握のため、〇〇を追加する。 ・取組指標〇〇について、〇〇の観点から評価を行う。			
		関係課室	みどり推進課 自然環境グループ、・・・			

本作成例は仮に作成したものです。本シートの記載内容は平成26年度の複数年サイクル点検評価実施時に確定します。